

(公印省略)

13病防第14号の9
平成13年12月21日

各関係機関の長 殿

福岡県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について(送付)

このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

平成13年度病虫害発生予報第10号
主要病虫害の発生現況及び予報の概要

【野菜】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
冬春トマト	灰色かび病 菌核病 葉かび病	並 並 少ない	並 並 少ない
冬春ナス	灰色かび病 すすかび病 うどんこ病	並 多い やや多い	並 多い やや多い
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病 灰色かび病	少ない 並 並	少ない 並 並
イチゴ	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	並 並 並 やや少ない	並 並 並 やや少ない
キャベツ	黒腐病 菌核病 コナガ	少ない やや多い 少ない	少ない やや多い 少ない
レタス	灰色かび病 菌核病	並 やや多い	並 やや多い
野菜共通	コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	少ない 少ない	少ない 少ない

【野 菜】

1 ナスのすすかび病（平成13年11月30日発表の注意報第2号参照）

（1）予報の内容

発生量：平年より多く、前年よりやや少ない

（2）予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病葉率は平均14.8%（平年：4.6%、前年：28.2%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は平年より低く、降水量および日照時間は平年並と予想されている。

（3）防除上注意すべき事項

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

イ 本病は薬剤防除だけで病勢の進展を抑えるのは困難なので、換気を行い、多湿にならないよう管理する。ただし、急激な温度・湿度変化は避ける。

ウ 草勢の低下で発病が助長されるので、着果量の調節や、適切な肥培管理を行う。

エ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

オ 本病の分生胞子は、曇天・雨天時に形成され、晴天時に飛散するので曇天・雨天後の晴天日に薬剤散布すると効果が高い。

カ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。

キ 薬剤防除については県野菜病虫害防除基準を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める（以下の病虫害についても同様）。

2 ナスのうどんこ病

（1）予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

ア 12月3半旬調査の結果、発病葉率は平均4.8%（平年：0.5%、前年：1.3%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は平年より低く、降水量および日照時間は平年並と予想されている。

（2）防除上注意すべき事項

ア 通風、採光をよくし、不用な下葉は除去する。

イ 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、発病初期のうちに防除を徹底する。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。

3 キュウリのべと病

（1）予報の内容

発生量：平年・前年より少ない

（2）予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病葉率は平均0%（平年：7.0%、前年：4.8%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は平年より低く、降水量および日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 肥料切れになると発生が助長されるので、適正な施肥を行う。

イ 換気を行い、多湿にならないよう管理する。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ - テ - ション散布を行う。

4 イチゴのうどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並で、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 1 2 月 3 半旬調査の結果、発病株率は平均 4 . 6 % (平年 : 4 . 2 % 、前年 : 2 . 4 %) であった。また、多発しているほ場も一部で見られる。

イ 気象予報では、1 月の平均気温は平年より低く、降水量および日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病の初発生は、新しく展開した葉の裏に認められるので、上位葉裏面を随時観察し、早期発見につとめる。

イ できるだけ不要な葉は葉かぎを行い、薬液が葉裏にもかかりやすくする。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ - テ - ション散布を行う。

5 イチゴの灰色かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 1 2 月 3 半旬調査の結果、発病株率は平均 0 . 2 % (平年 : 0 % 、前年 : 0 . 1 %) であった。

イ 気象予報では、1 月の平均気温は平年より低く、降水量および日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 換気を行い、多湿にならないように管理する。

イ 被害果は早めに除去する。

ウ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性低下を避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ - テ - ション散布を行う。

6 キャベツの菌核病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多く、前年並

(2) 予報の根拠

ア 1 2 月 3 半旬調査の結果、発病株率は平均 1 . 5 % (平年 : 0 . 4 % 、前年 : 1 . 8 %) であった。

イ 気象予報では、1 月の平均気温は平年より低く、降水量および日照時間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株を放置すると感染源となるので、ほ場外へ持ち出し焼却処分する。

イ 菌核は土中で2～3年は生存し次作の感染源となるので、発生を認め
たほ場では、収穫終了後に残さをすき込まないようにする。

7 レタスの菌核病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発病株率は平均1.4%（平年：0.2%、
前年：0.1%）であった。

イ 気象予報では、1月の平均気温は平年より低く、降水量および日照時
間は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株を放置すると感染源となるので、ほ場外へ持ち出し焼却処分す
る。

イ 菌核は土中で2～3年は生存し次作の感染源となるので、発生を認め
たほ場では、収穫終了後に残さをすき込まないようにする。

1月の気象予報（1か月）

（予報期間 12月15日～1月14日）

2001年12月14日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年より低く、降水量および日照時間は平年並の可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	50	30	20
降水量	30	50	20
日照時間	20	50	30

- < 1週目の予報 > 12月15日～12月21日
この期間の平均気温は、平年より低い可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 12月22日～12月28日
この期間の平均気温は、平年より低い可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 12月29日～1月11日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
7.5	62.3	106.0	8.3	7.8	7.1

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び電話番号は下記のとおりです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）